



令和6年度 事業報告・決算報告

令和6年度は、5年間にわたる活動の指針として策定した「第3次別府市地域福祉活動計画アクションプラン」の2年目として、地域の生活課題が複雑化、複合化する中で、誰もが取り残されることのないような支え合える地域づくりを推進しました。

身近な生活圏内での相談支援強化につなげるため、毎週定期的な「まちなんでも相談室」をあすなろ館、おひさまパークで新たに開設し、薬店や事業所などが参加する「かけ橋パートナー店」の拡充や、さらにスマートフォンでも相談対応できる仕組みも作成しました。

また、認知症対策では、認知症初期の段階から地域において当事者や家族を支援するための「チームオレンジ」の仕組みづくりや地域で支え合い活動を推進する事業を別府市から新たに受託し、認知症になっても地域で安心して生活できる環境づくりにも取り組みました。

さらに、成年後見支援事業では、相談、法人後見、安心サポートそしてべっぷ終活あんしんサポートのニーズが増加し、支援の必要な方を適切な支援につなげるコーディネート機能を強化しました。そのような中で、別府市では初めて監督人選任型市民後見人が1名誕生しました。

最後に、災害支援対応については、能登半島地震被災地支援では、珠洲市災害ボランティアセンターへ職員を派遣し、さらに台風10号で浸水被害を受けた別府市内の被災世帯に対し、別府市と情報共有し、本会では初めて災害ボランティアネットワークやボランティアを活用しての災害ごみの搬出、家屋内の畳上げ、床下等の泥出しや洗浄等活動支援を行いました。

令和6年度 総収入額 2億1,494万345円



会費・寄付金	9,458,470円(4.4%)
補助金	34,146,379円(15.9%)
受託金	136,461,279円(63.5%)
介護保険事業	7,245,500円(3.4%)
事業収入	4,336,789円(2.0%)
施設使用料	2,009,810円(0.9%)
共同募金	10,018,000円(4.7%)
その他	11,264,118円(5.2%)



令和6年度 総支出額 2億1,187万248円

安心・安全な地域づくり

43,298,166円(20.4%)

- 地区社協、各種団体への活動支援
- 一人暮らし高齢者の安否確認
- ボランティア活動支援 ● 子どもへの支援事業
- 福祉教育 ● 食料支援 ● 災害支援等



生活支援・相談事業

99,177,908円(46.8%)

- 生活支援 ● 認知症相談 ● 権利擁護事業
- 終活相談 ● 専門機関とのネットワークづくり



社協の管理運営 その他の事業

28,558,871円(13.5%)

- 福祉機器の貸出
- 広報啓発(社協だより等)
- 職員研修 ● その他法人運営全般
- 介護支援ボランティア事業
- 共同募金事業等



介護保険事業

7,349,494円(3.5%)

- 居宅介護支援事業



施設管理運営

33,485,809円(15.8%)

- 別府市社会福祉会館
- 別府市北部コミュニティーセンターの運営



別府っ子応援事業



奨学金支援

経済的な事情により、修学意欲を妨げないために、高等学校へ進学する学生を対象に支援します

活動支援

小中学生を対象に、経済的な事情でスポーツや文化、芸術活動への意欲やチャンスを妨げないために、活動経費の一部を支援します

福祉教育

児童生徒が、福祉体験や講話を通じ、いのちなどについて考えたり、ボランティア活動へのきっかけづくりへつなぎます

別府市社会福祉協議会では、将来を担う子どもたちの育成、支援等を行うことで、児童福祉の向上と別府っ子の心の醸成、健全育成を目指しています。

別府っ子応援事業 6つの 取り組み

子ども食堂支援

様々な事情による子どもの孤食や欠食を防ぎ、地域ぐるみで子どもを育む取り組みと経費の一部を支援します

生活環境支援

別府市営住宅に入居する世帯のうち、18歳未満の子どものいる世帯を対象に、別府市の浴室給湯設備設置経費の一部を支援します

別府っ子応援 アクション

別府市社協が、将来を担う別府っ子を支援する取り組みに応援・ご協力いただける個人・企業団体の皆さまからの活動サポートや寄付などの、さまざまな形による支援です

【問合せ先】

別府市自立相談支援センター
☎0977-27-8835

別府市市民後見セミナー2025

身寄りがなくとも安心して暮らせるまちづくりをめざして

日時 令和7年9月6日(土) 13:00開会(12:30開場)

会場 別府市社会福祉会館(上田の湯町15番40号)

参加無料

定員100名
(要申込)

単身高齢者世帯等の核家族の増加や価値観の変化等により、先祖代々の累代墓を承継していくことが一般的であった先代から、供養の形が多様化しています。人口減少地域の墓所管理等について研究されている佐々木隆夫氏より時代背景を踏まえた変遷について学び、後半では多様化した供養の形や具体的な手続きについて葬送業界から高齢者向けの終活支援にも取り組んでいる茶屋元崇行氏より講話をしていただきます。

【第1部】13:10 ~ 14:40

講演 「お墓の選択肢が広がる時代 ~社会的変遷を踏まえて~」

講師 西九州大学健康福祉学部社会福祉学科 准教授 佐々木 隆夫 氏

【第2部】14:50 ~ 15:50

講演 「多様化した供養・納骨・墓じまいの方法」

講師 株式会社 ファイン 統括本部長 茶屋元 崇行 氏



佐々木 隆夫 氏



茶屋元 崇行 氏

【申込方法】お電話又は、Googleフォームよりお申込みいただけます。

【申込先】別府市成年後見支援センター ☎0977-73-6070

Googleフォーム
からのお申込み



上記お問い合わせは☎26-6070 別府市社会福祉協議会まで

ご寄付ありがとうございました(6月1日から6月30日まで)



▼香典返し(敬称略)

～謹んで故人のご冥福をお祈り申し上げます～

- ・1万円(亡母 アイ子) 上人南…………元永 政幸
- ・3万円(亡夫 祐司) 東荘園…………山本まゆみ
- ・1万円(亡妻 ケサ子) 扇山町…………工藤 順一
- ・金一封(亡母 スミ子) 大畑…………猪俣 祐一
- ・2万円(亡母 ヨリ子) 古市町…………藤内 克則
- ・3万円(亡父 功) 亀川浜田町…………豊島 将
- ・金一封(亡父 正信) 鶴見園町…………鹿嶋 信幸
- ・金一封(亡父 清廣) 中須賀元町…………永井 寛之
- ・2万円(亡母 トシ子) 大畑…………平川 和也
- ・5万円(亡夫 光雄) 関の江新町…………齋藤 洋子
- ・5万円(亡夫 伸一郎) 南立石2区…清末 妙

▼一般寄付(敬称略)

- ・100,000円(会員から寄付を募り、困っている市民の為に活用して欲しい)…………別府ライオンズクラブ女性部会
- ・5,000円(地域福祉の為に)…………西田喜美子

▼自動販売機設置協力企業(敬称略)

- ・天然坊主地獄

法人会員のご紹介【6月1日～6月30日受付分】(敬称略)

～ご協力ありがとうございました～

- ・別府市遺族会連合会
- ・株式会社 坂井文紙商会

▼フードドライブ

ぜんざい、ミックスゼリー、みかんゼリー、白桃ゼリー、パスタ、マヨネーズ、たまごスープ、ビスケット 他

加藤 久子、非営利一般社団法人あふくわけ 他3名からご協力いただきました。

市役所(南部出張所、朝日出張所、亀川出張所) あすなろ館でも香典返しの受付をしております。

令和6年能登半島地震・能登豪雨災害義援金を社会福祉協議会にて受付しています。

皆で後見、地域に貢献

こうけん相談室

vol.43

問合せ先

別府市成年後見支援センター
☎0977-73-6070



こうけん
後犬ちゃん

「任意後見人」は、私の友人でもなることができますか?
※任意後見契約…認知症などにより判断能力が低下した時に備えて、あらかじめ自らが選んだ人(任意後見人)に、代わりにしてもらいたいことを契約で決めておくこと。



成人であれば、誰でもご自身が信頼できる人を「任意後見人」にすることができます。身内の人でも、友人でも問題ありません。ただし、法律でふさわしくないと定めている事由のある者(破産者、本人と訴訟をした者、不正な行為、その他任意後見人の任務に適しない事由のある者)は却下される可能性があります。そのほか、弁護士、司法書士、社会福祉士等の専門家や、法人(社会福祉協議会など)に任意後見人を依頼することもできます。詳しくは別府市成年後見支援センターまでお気軽にご相談くださいワン!

別府市生活支援体制整備事業

未来を築く 地域づくり講演会



6月23日、ヤングケアラー研修インストラクターの高岡里衣さんに「ヤングケアラーを支える、地域のチカラ」をテーマにご講演いただきました。様々な家庭環境の中で、いかに地域の支えが必要となるかを、ご自身の体験をもとにお話いただきました。来場された方も深くうなずいており、自分たちの地域を見つめなおすきっかけになりました。

認知症と共に生きる2025

いつか来る災害…
その時認知症の人と家族が躊躇しない
「認知症になっても安心して暮らせる地域」にするために
避難所でのケアを考えましょう。

周りの方の理解とかかわり方②-2

認知症の人が過ごせる条件

東日本大震災の時の教訓として避難所生活の条件として次のことがあげられました。

- 1位 周囲の方の理解があった
- 2位 なじみの人や家族が近くにいた
- 3位 介護者を支援する人がいた
- 4位 常に見守れる協力体制があった
- 5位 日課や役割等を作った



その他に、認知症の知識がある、飲み込みやすい食事、レクリエーションなどがあげられました。

(出典：社会福祉法人東北福祉会 認知症介護研究・研修仙台センター)

上記お問い合わせは☎26-6070 別府市社会福祉協議会まで

